

行動・ふるまいの解釈と支援

北海道教育大学旭川校 萩原 拓 hagiwara.taku@a.hokkyodai.ac.jp

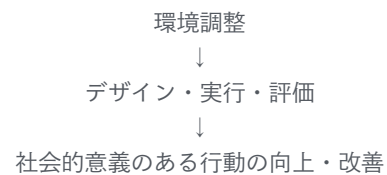
1

行動・ ふるまいの分析

2

応用行動分析

(Applied Behavior Analysis: ABA)



あくまでも科学的手段

3

Positive Behavior Supports : PBS

教育・環境改善を基盤とした、生活の質の向上、問題行動の軽減を目標とした応用科学

- 子どもに問題行動に代替する生活的機能性をもった行動を教える
- 問題行動の引き金となる先行事象を調整し、社会的に望ましい行動が起きるような刺激を増やす
- 適切な適応行動に対する強化子を調整する

Dunlap G. Positive behavior support: Assisting families with behavioral strategies in home and community settings. Autism Advocate. 2008; 53:27-33.

4

ASDへのベスト・プラクティス

Fundamental Applied Behavior Analysis Techniques

- ・ Reinforcement （（正の）強化）
- ・ Prompting （プロンプト）
- ・ Time Delay （時間遅延法）
- ・ Modeling （モデリング）
- ・ Task Analysis （課題分析）

Positive Behavioral Interventions and Supports

- ・ Functional Behavior Assessment （機能的行動アセスメント）
- ・ Antecedent-based Intervention （先行子操作）
- ・ Extinction （消去）
- ・ Response Interruption/Redirection : RIR （反応中断・修正）
- ・ Differential Reinforcement of Alternative, Incompatible, or Other Behavior （代替行動／非両立／他行動分化強化）
- ・ Functional Communication Training （機能的コミュニケーション訓練）

Odom, S. L. & Wong, C. (2015). Connecting the dots: Supporting students with autism spectrum disorder. American Educator, 39(2), 12-44, p.15

5

ASDへのベスト・プラクティス

Social-Communication Interventions

- ・ Social Skills Training （ソーシャルスキル・トレーニング）
- ・ Peer-Mediated Instruction and Intervention （仲間媒介法・支援）
- ・ Social Narratives （ソーシャル・ナラティブ）
- ・ Structured Play Group （構造化プレイグループ）
- ・ Picture Exchange Communication Systems : PECS （絵カードコミュニケーション）

Teaching Strategies

- ・ Visual Supports （視覚的支援）
- ・ Discrete Trial Teaching （不連続試行訓練）
- ・ Naturalistic Intervention （日常環境支援）
- ・ Parent-Implemented Intervention （保護者による支援）
- ・ Pivotal Response Training （機軸反応訓練）
- ・ Scripting （スクリプト）
- ・ Exercise （エクササイズ）

Odom, S. L. & Wong, C. (2015). Connecting the dots: Supporting students with autism spectrum disorder. American Educator, 39(2), 12-44, p.15

6

ASDへのベスト・プラクティス

Cognitive Behavioral Interventions

- ・ Self-Management （自己マネージメント）
- ・ Cognitive Behavioral Intervention （認知行動療法）

Technology Oriented Interventions

- ・ Technology-Aided Instruction and Intervention （テクノロジー利用支援）
- ・ Video Modeling （ビデオモデリング）

Odom, S. L. & Wong, C. (2015). Connecting the dots: Supporting students with autism spectrum disorder. American Educator, 39(2), 12-44, p.15

7

行動マネージメントの基本



8

正の強化

- 個人の反応（行動）のすぐあとに、ある刺激を呈示することによって、その後の行動生起頻度が増加すること
- 現在のPBSでは最も使われ、推奨されている手段
- ただ“ほめる”だけではない…

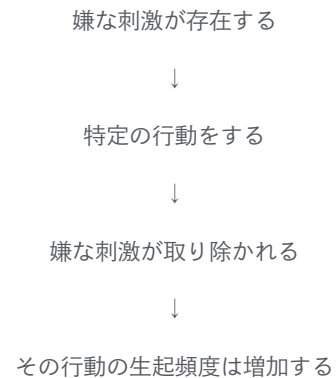
9

いろいろな正の強化（分化強化）

- 低頻度行動の分化強化
対象行動の生起頻度が基準よりも少ないまたは同等のときに強化
- 他行動の分化強化
対象行動が起こらなかったら強化
- 対立行動の分化強化
対象行動と同時に起こりえない行動を強化
- 代替行動の分化強化
対象行動と違う行動を強化

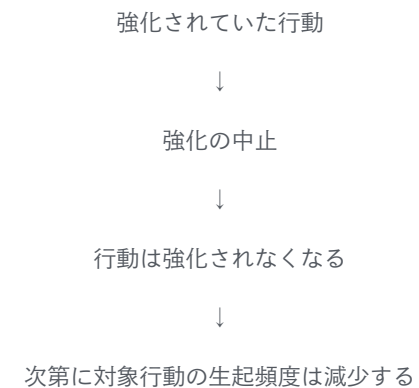
10

負の強化



11

消去



12

罰

- レスponseコスト
 - ・ ある行為に対し、一定量の強化刺激の除去（例：罰金）
- タイムアウト
 - ・ ある行為に対し、正の強化を受ける機会を一定時間止める
- 過剰修正法
 - ・ 過剰に正しい行動を学ばせることによって、不適切な行動を減少させる

13

機能的アセスメント

アセスメントで仮定した問題行動の機能を検証する

注目要求
逃避要求
感覚要因
物的要求

（問題）行動が持続する…強化の継続？

14

行動・ふるまいには何らかの理由がある…

他の人からの注意を引きたい
好きなものを手に入れたい
やりたいことをしたい
嫌いな勉強・課題をしたくない
社会的な義務から逃れたい
感覚的・生理的要求

なぜその行動が持続しているのか→機能的アセスメント

15

操作的定義

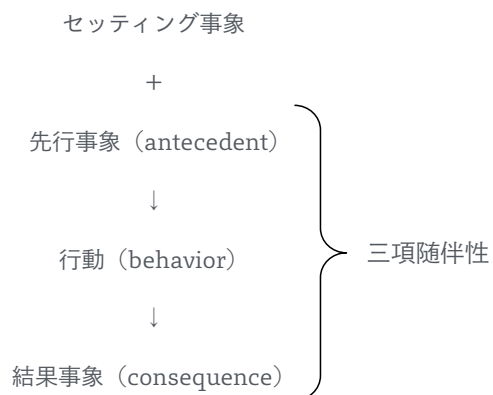
まずはコレ！

- だれが見ても（読んでも）同じ解釈が可能な定義
- 対象行動について「具体的」な記述および例を挙げられていること
- 操作的定義により、行動観察者間の「ズレ」が最小限となる

操作的定義なしに的確な分析・支援はムリ！

16

行動のABC分析



17

ABC分析の例

時間	先行事象	行動	結果事象
2校時（理科）	・ 先生が実験の説明をしている ・ 生徒は先生の話の聞いている	「せんせい～、はらへった～！」	・ 先生「静かに！」 ・ みんな「ゲラゲラ」

18

行動生起につながる機能的関係を仮定

- ・ Aくんは、授業中、奇声をあげたり、わからないのに質問に答えようとしたり、先生が話しているのに勝手にしゃべり出してしまう。
- ・ Bくんは、休み時間中や自由時間に、人に近づいてやたら体に触れたり、唐突に突き飛ばしたりする。
- ・ Cさんは、授業中席を立て歩き回ることが多い。先生の話は聞いているようである。
- ・ Dさんは、みんなでゲームをしていると、かんしゃくを起こしたり、泣いたりすることが多い。
- ・ Eくんは、列に並んで順番を待つのが苦手。授業中の課題や給食時なども、内容はおろそかでも、一番はじめに終わらせる。

19

課題分析

- ・ ある行動を細分化して複数の行動の連続したものとしてとらえること
 - ・ どこまで細分化するかは支援対象者に合わせる
- 買い物
- 買い物リストをつくる
 - 十分なお金を持つ
 - どこの店に行ったらよいか決める
 - 店に行く
 - カゴにれたらメモにチェックしていく
 - チェックしていないものを見つけに行く
 - レジに行く
 - お金を払う
 - 帰宅する

20

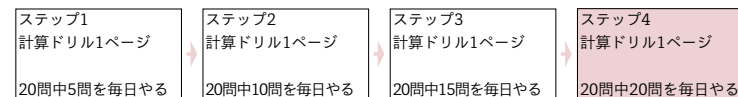
チェイニング

- 作業/課題→さまざまな行動の連鎖
- 課題分析で細分化したひとつ一つ順番にマスターしていくことで一つの行動を学習する
- 正の強化と組み合わせる
- 逆行性チェイニング（連鎖の最後から）
- 順行性チェイニング（連鎖の最初から）
- 全課題提示法（すべての連鎖）

21

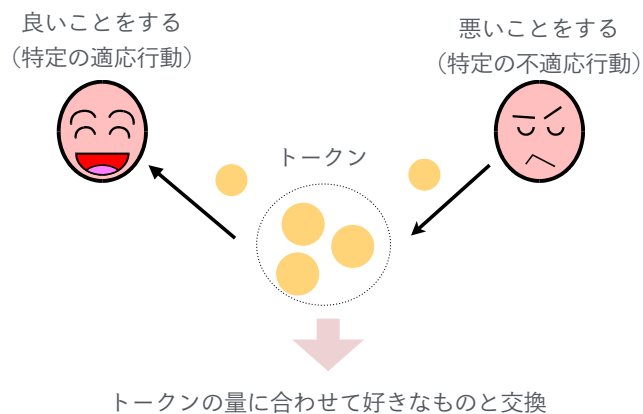
シェイピング

- 対象行動を目標に徐々に近づけていく分化強化
- フェイディングとの違い
 - ・新たに学ぶ行動に利用
 - ・結果となる行動が変化していく
 - ・強化条件が変化していく



22

トークンエコノミー



23

契約書（行動契約法）

- 自分の行動目標に対する契約書
- 主な内容
 - ・ 目標
 - ・ 対象行動の定義
 - ・ 到達レベル
 - ・ 到達する期間
 - ・ ほうび
 - ・ ペナルティ（オプション）
 - ・ 契約者（生徒・先生）のサイン

24

環境調整：先行事象・セッティング事象

- 問題行動が起こりやすい環境を改善
 - ・ 机の配置
 - ・ 照明・室温
 - ・ 睡眠を十分にとる
- 行動の「引き金」となるものを除去・変更
 - ・ 嫌いな音を出さないようにする
 - ・ 予定変更は事前に伝える

25

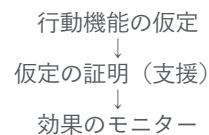
環境調整：結果事象

- 結果事象が問題行動生起の強化子にならないようにする
 - ・ 授業中の突然の奇声に「こらっ！」→泣いたら宿題の数を減らしてもらった…だとしたら、どうする？
- 問題行動が起こったときの対策
 - ・ まずはその行動が「問題」かをもう一度検討
 - ・ 危機管理
 - ・ 対象児を現在の環境から離す
 - ・ 精神的・肉体的拘束はなるべく避ける

26

行動支援のまとめ

- 行動に対する先行事象、セッティング事象、結果事象の機能を明らかにする



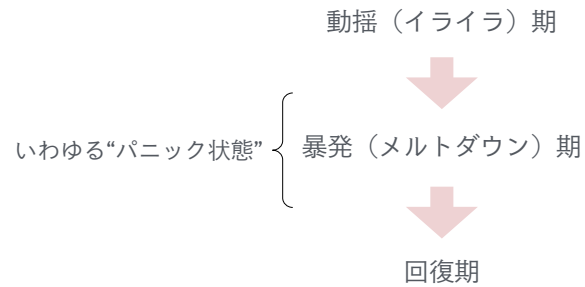
- 問題行動の代わりになる「適応行動」を教える
- 強化子をうまく利用する
- 分化強化・シェイピングを利用
- ペナルティや罰はなるべく避ける

27

パニックの理解 と対処手段

28

パニックに至る経緯



29

動揺（イライラ）期

- パニックの前兆
- 落ち着きなさ、イライラ、注意散漫
- 声音、表情、態度の変化
- パニックとは無関係の行動が表出する場合もある
- この段階では、パニックを未然に防げる可能性
→つまり、次の段階では“防ぐ”や“軽減する”は無理

30

暴発（メルトダウン）期

基本的に自己抑制は不可能

他者からの働きかけも効果なし
(むしろ、できる限り手を出さないこと)

↓

拘束等はタブー

本人、他者の安全確保が最優先

本人のエネルギーが枯渇し自然に消滅するのを待つ

31

回復期

- いつかは必ず力尽きる段階がきます
- 回復期の本人の状態は様々
 - ・ 起こったことの否定
 - ・ 自責
 - ・ ひきこもり
 - ・ 記憶無し
 - ・ 極度の肉体的・精神的疲労
- 多くの場合、この状態で他人の意見を聞くことは不可能
→本人に対する働きかけは回復し、落ち着いてから

32

パニックを検討する

パニックの危険度

- 内的パニックと外的パニックの違いを確認
- 本人が暴れているときは、第一に他者（親を含む）の安全を確保
- パニックがある程度予測できる場合、危険物等に関する環境整備

33

パニックを検討する

パニックの要因

- 本人の特性
 - 物理的環境
 - 本人の状態
- セッティング事象
- パニックが起きる前の事柄（先行事象）
 - ・ 先生やクラスメートの一言
 - ・ 突然の環境変化（爆音など）
 - ・ 本人の過度の思いこみ・誤認



機能的アセスメント

34

パニックを検討する

パニックにはパターンがある

- パニックに至る過程を観察・分析
 - ・ パニックを起こすきっかけはあるか？（一つは限らない）
 - ・ パニックはたいてい同様な経過をたどるか？
 - ・ パニックの時間はいつもほぼ同様であるか
 - ・ 回復期の状態はいつもどうか？
- 瞬間的にパニックに至るケースとは？
- パニックの過程がある程度把握できれば、安全対策が可能

35

パニックを検討する

パニックへの対処法

- 自分のストレスレベルを知るトレーニング
 - ・ 先生や保護者の助け
 - ・ 自分で開発
- 自己認知可能であれば、ストレスレベルに合った対処法を自身で実施
- 自分でコントロールできなくなった場合の手段を考える
- いわゆる昨今の「アンガーマネジメント」などのテクニックを利用するのも可
- やはり、パニックに至る前に要因をいかに排除し、ストレスレベルを軽減するかが現実的

36

ホームベース

named by Dr. Brenda Myles

- セーフスペース、逃げ場、避難所、隠れ家、…、つまり自分が落ち着ける場所
- 自宅や学校で、自分が“一人で”落ち着ける場所を確保する
- イライラし始めたら、またストレスのパターンがわかっていたら定期的にそこで落ち着く
- 自分が落ちつくもの、タオルやお気に入りのグッズを用意しておく

37

5段階表

(Incredible 5-point Scale)

- 自分の感情、環境への反応の状態を組織的・視覚的に理解
- それぞれの段階に応じた対処法を検討
- スケール使用の初期段階は保護者・教師の助けが必要になる場合もあるが、最終的に“自分で自分をモニター”し、“自己制御”出来るようになるのが目標

ブロン&カーティス（2006）これは便利！5段階表, スペクトラム出版社

38

5段階表の例

レベル	見た目	自分の気持ち	自分で出来ること
5	泣きわめく、ものを投げる	頭がバクハツしそう	うちへ帰る
4	ひとにどなったり、なぐりそうになる	とってもしんばい	〇〇先生のところへ行く
3	だまりがち。悪い言葉づかいをする	ふきげんになる	クラスメートからはなれる（特にきらいな奴）
2	ふつう	いい感じ	その時間をエンジョイする
1	みんなとなかよくやっている	チョーいい感じ	このまま、このまま

39